

第4編 經 濟

產 業 推 進

農 業 ・ 畜 産 業

水 産

商 業 観 光

工 業

勞 働 行 政

公 營 事 業

第1章 産業推進

産業振興課

かつて平塚市には飛行機をつくる工場や繊維工場などがあり、それが現在にも生かされて、さまざまな産業分野の工場がある。農業については、県下第一位の生産量を誇る水田地帯と丘陵部の豊かな畑地を有している。また、戦後一大発展をとげた商業は、卸売業を主体に年間商品販売額では湘南地域有数となっている。さらに、漁業については、定置網・船引き網・刺網のほか、近年では恵まれた立地条件から遊漁船業等の観光漁業が盛んである。

このように平塚市は豊かな風土とともに活発な経済活動が生まれ出る産業資源に恵まれている。今後の平塚市の商業・工業・農業・漁業を網羅した産業活性化の推進に当たっては、急激な社会・経済環境の変化に対応するため、平塚市のポテンシャルを十分に活用した産業間連携の確立が求められている。

1 平塚産品普及促進事業

(1) 湘南ひらつか名産品選定事業

湘南ひらつか名産品・特産品の認知度向上を図るため、平成30年度に引き続き、広報ひらつかのコラムへのシリーズ掲載やホームページの改修を行った。また、花巻まつり特産品フェアや七夕まつり、ラスカ平塚等でイベント出店を行い普及促進に努めた。

ア 湘南ひらつか名産品—37品目（認定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日）

○食品加工品

弦斎カレーパン	たたみいわし
さつま揚げ詰合せ	味付落花生（上赤・上白）
湘南ひらつかカオリ麺	やまと豚 ロースハム
たたみいわし燻製（醤油・塩味・胡椒風味）	湘南ひらつか七夕ふりかけ
湘南ベルマーレカレー	肉の石川 とん漬（神奈川県産 相模豚）
「湘南トマト工房」トマトジュース	湘南タコス
やまゆりポーク つるし焼豚	湘南こっこからあげ
ひらつか七夕ラーメンセット	

○和菓子

湘南名菓ほっくり	都まんじゅう
ひらつか囲碁最中	つりがね最中
なでしこ	囲碁の町ひらつか
湘南ボーイ	平塚の里
ほしにねがいを	大番

○洋菓子

湘南みかんぱん	ばらジャム
湘南ポテト	じゃこ瓦
West Coast湘南 はちみつラスク	平塚味噌アイス
ひらつかリンツァー	湘南しらすチーズクッキー

○酒類

本格芋焼酎 くりまさり

○工芸品

相州だるま (2店)	竹宝印 かぐや
------------	---------

イ 湘南ひらつか特産品—8品目 (認定期間：平成30年4月1日～令和5年3月31日)

○特産品

平塚のバラ	平塚トマト
平塚きゅうり	平塚いちご
平塚小松菜	平塚の金アジ
湘南しらす	平塚のシイラ

(2) ふれあいマーケットの開催

生産者と市民がふれあいながら楽しんで買い物ができる憩いの場所として、また、地場産業の紹介と活性化を図ることを目的として「湘南ひらつかふれあいマーケット」を開催した。

- ・ 開催日 毎月1回・日曜日 午前7時から8時まで
- ・ 場 所 平塚地方卸売市場
- ・ 店舗数 16店舗 (令和2年3月末日現在)
- ・ 出店内容 平塚産の農産物及び加工食品、花、魚介類加工品、湘南ひらつか名産品、食料品等
- ・ 来場者数 年間約6,900人

2 金融総合案内事業

国・県・市の中小企業に対する支援情報を集めるとともに、これらすべての金融支援が紹介できる総合案内窓口を開設することにより、利用者にはふさわしい金融支援を行った。

相談内容	説明	件数(件)
融資相談	国の融資、県の融資等全般の相談	77
セーフティネット等認定受付	特別な融資保証枠の認定	124
経営サポート資金受付	資金に関する相談、受付	50
新創業支援資金相談	資金に関する相談、受付	53
経営革新事業支援	経営の向上等に必要資金の相談や専門知識の提供	1
合 計		305

3 産業振興計画推進事業

平成21年度に策定した産業振興計画及び平成30年度まで本市が重点的に取り組む施策として平成26年度に策定した「アクションプラン」に基づき、商業・工業・農業・漁業・観光各々の活性化事業とともに産業間連携を視野に入れた産業振興施策を進めた。

また、本市産業の現状と課題、社会情勢を踏まえ、持続的な経済成長を図るため、新たな産業振興を示すべく「産業振興計画2024」を進めた。

4 起業家支援事業

起業家育成のためのセミナーを平塚商工会議所と共催し、起業に関する情報提供や事業計画の作成支援を行った。また、市内大学と連携して「中小・ベンチャー企業魅力発信トークライブ」を実施し、創業風土の醸成に寄与するとともに、「Hiratsuka フレッシュビジネス認定コンペティション」で認定した事業計画に対し「起業家経営見守り事業」を実施し、創業後の経営支援を図った。さらに、創業後の事業活動を支援するため、まちぐるみで起業家を支援する「ひらつか創業サポーターズ」事業を実施した。

5 中小企業経営支援事業

融資制度や各種補助金制度を継続実施するとともに、金融機関等と協議・調整を図りながら、融資制度の見直しを行った。また、事業者へ専門家の派遣や、平塚商工会議所、神奈川県信用保証協会及び平塚信用金庫と「中小企業の経営支援における連携に関する協定」に基づき、事業承継セミナー等を開催することで、中小企業のライフステージに応じた様々な経営課題の解決を支援した。

6 産業間連携促進事業

産業間連携を促進するため「平塚市産業活性化会議」を開催したほか、産業間連携ネットワーク会員への支援として、セミナーの開催や情報提供、マッチング支援を行ったほか、地域資源や経営資源を活用した新商品開発、新事業創出する会員プロジェクトへの取組に対し、専門家派遣や開発費補助等の支援を行った。さらに、会員が開発した特色ある取組の商品をPRするため、全国規模の見本市への出展支援を行い、販路開拓を図った。

7 融資及び信用保証料補助金・利子補給

中小企業の健全な育成振興を金融面から支援するため、取扱金融機関への預託による融資事業を実施し、信用保証料の補助事業、設備投資の促進や経営の安定化に資する融資に対する利子補給事業を行った。

・ 中小企業金融対策預託金 1,500,000 千円

平塚市中小企業融資制度等利用状況（工業）

資金名		貸付件数(件)	貸付金額(円)
振興資金	小企業運転資金	10	35,000,000
	運転資金	44	398,600,000
	設備資金	66	364,136,000
経営サポート資金		21	311,100,000
セーフティネット保証資金		1	80,000,000
リターンアシスト保証資金		0	0
経営革新事業支援資金		0	0
新創業支援資金		10	34,580,000
計		152	1,223,416,000

平塚市中小企業融資制度等利用状況（商業）

資金名		貸付件数(件)	貸付金額(円)
振興資金	小企業運転資金	7	15,500,000
	運転資金	37	289,630,000
	設備資金	31	153,470,000
経営サポート資金		17	186,000,000
セーフティネット保証資金		1	70,000,000
リターンアシスト保証資金		0	0
経営革新事業支援資金		0	0
新創業支援資金		11	43,500,000
計		104	758,100,000

中小企業信用保証料補助金交付状況（工業）

補助対象資金	補助件数(件)	補助金額(円)
平塚市中小企業融資制度	121	13,720,200
（うち、経営革新事業支援資金	0	0
（同 新創業支援資金	8	578,200

中小企業信用保証料補助金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数(件)	補助金額(円)
平塚市中小企業融資制度	84	9,071,000
（うち、経営革新事業支援資金	0	0
（同 新創業支援資金	6	505,500

中小企業設備資金等利子補給金交付状況（工業）

補助対象資金	補助件数(件)	補給金額(円)
振興資金（設備）	157	4,391,000
経営革新事業支援資金（設備）	0	0
新創業支援資金（設備）	0	0
計	157	4,391,000

中小企業設備資金等利子補給金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数(件)	補助金額(円)
振興資金（設備）	102	2,155,500
経営革新事業支援資金（設備）	1	8,500
新創業支援資金（設備）	12	690,800
計	115	2,854,800

中小企業経営安定化資金等利子補給金交付状況（工業）

補助対象資金	補助件数(件)	補助金額(円)
経営サポート資金	99	4,276,000
セーフティネット保証資金	31	2,496,500
リターンアシスト保証資金	0	0
経営革新事業支援資金（運転）	0	0
新創業支援資金（運転）	11	206,600
計	141	6,979,100

中小企業経営安定化資金等利子補給金交付状況（商業）

補助対象資金	補助件数(件)	補助金額(円)
経営サポート資金	98	3,602,700
セーフティネット保証資金	12	673,200
リターンアシスト保証資金	0	0
経営革新事業支援資金（運転）	1	4,900
新創業支援資金（運転）	19	289,700
計	130	4,570,500

8 産業功労者表彰

市の産業の発展に功労のあった工業界功労者2人、優良中小工場経営者2人、農水産業界功労者2人、商店会功労者表彰1人及び優良永年商店経営者1人を表彰した。

・令和元年11月21日（木） 会場 平塚市美術館

第2章 農業・畜産業

農水産課

第1節 農業

平塚市は県内有数の農業が盛んな都市である。郊外に広がる平野部には、相模川や金目川水系の河川からもたらされる水を活用し、神奈川県内随一の米の生産量を誇る水田地帯が広がり、周囲のなだらかな丘陵部には畑地が開かれ、これらの農地を基盤に稲作、露地野菜、施設園芸、畜産など多種多様な農業が営まれている。

一方で農業の現状に目を移すと、農業者の高齢化や減少、耕作放棄地の発生、鳥獣による被害など、全国各地の農業を取り巻く問題と同様の課題が見受けられる。

本市では、これらの状況を踏まえて策定した「平塚市都市農業振興基本計画」に基づき、大都市近郊の立地を生かしながら、担い手の確保と育成、地産地消の推進、消費者のニーズに応える農産物の生産支援など、農業の持続的な発展に向けた農業施策を積極的に推進している。

1 農業構造と経営耕地の状況

いずれも 2015 年農林業センサス調べ

農家数 (単位 戸)

市内総世帯数は平成 27 年 2 月 1 日現在

市内総世帯数	106,294	農家比率 1.6%
総農家数	1,671	
販売農家	1,081	専業農家比率 24.6%
専業農家	411	
兼業農家	670	
自給的農家	590	

販売農家における農業就業人口 (単位 人)

合計	1,891
男	983
女	908

地目別経営耕地面積

地目	田	畑	樹園地
面積 (ha)	622	385	27

2 農業生産の状況

稲作は、農業経営の中心を担っており、生産量は県内で最も多く、2割を占めている。主力品種は、市内にある研究機関が育種した「はるみ」であるが、この品種は、平成 27 年 2 月に県の奨励品種として採用され、平成 28 年産米及び平成 29 年産米において日本穀物検定協会による「米の食味ランキング」で最高ランクの特Aを獲得し、高品質な米であると評価を受けている。一方、稲作からの転作により、他作物への移行も進んでおり、施設園芸では、トマト・キュウリ・いちごのほか、バラ・鉢物などの花きが栽培されている。このうち、トマト・キュウリの栽培においては、最新技術の導入により効率的な営農が展開され、生産物は京浜地方を中心に、市場に出荷されている。い

ちご栽培においては、栽培技術の研究や市場性の高い品種への転換などにより、良質果実の出荷が行われている。近年ではいちご狩りが盛況で、観光資源としての「農」が見直されている。

花きは、市場性の高いバラやユリなどの切花や鉢物、花壇苗、洋蘭などを栽培し、その多くは関東一円の市場へ出荷されるほか、地元直売所へも出荷されている。

畑作は、年間を通じてほうれんそう・こまつな等が栽培されており、春夏作ではキュウリ・なす・甘しょ・えだまめが、秋冬作ではねぎ・キャベツ・はくさい・大根・ブロッコリーなどが主として栽培されている。また、米からの転作として、ねぎ・さといもなどが栽培され、産地を形成している。

果樹は、かき・なし・ぶどう等を中心に栽培され、病虫害防除の徹底と、整枝せん定により生産性の向上を図るとともに、優良品種の導入や作業の省力化・効率化を目的とした栽培技術の研究を行っている。

販売目的で作付け（栽培）した作物の類別作付（栽培）農家数（単位 戸）

区分	類別作付 (栽培)農家数	内訳	
		露地	施設
稲	716	-	-
麦・雑穀・いも類・豆類	323	-	-
野菜類	571	542	114
果樹類	96	95	4
花き・花木	63	25	49
その他	20	14	8

2015年農林業センサス調べ

※露地と施設を兼ねた場合があるため、
類別作付(栽培)農家数とは合致しません。

3 主な農業振興施策

(1) 都市農業促進事業

都市農業への理解を深めるため、生産者と消費者の交流事業を実施した。また、地産地消の推進を図るため、生産団体が実施する消費促進に関する取組を支援した。

(2) 担い手総合対策事業

高齢化や担い手不足により、多くの農業者が利用する農作業受託組織に対して、農業機械等購入費の補助を行った。また、新たな担い手の確保・育成に向けた取組を支援するとともに、認定新規就農者に対して、国の交付金を活用し、就農当初の資金を支援した。

(3) ひらつか花アグリ推進事業

四季折々の花を楽しみ、園芸や農業を体感・体験できる「ひらつか花アグリ」（寺田縄）への来場者を確保し、農業の振興と理解を図るため、エリア内の県立花と緑のふれあいセンター「花菜ガーデン」、JA湘南大型農産物直売所「あさつゆ広場」、平塚市「農の体験・交流館」の各施設が連携し、収穫祭や農業・調理体験教室など、多彩なイベントを開催した。また、「農の体験・交流館」と金田市民農園「マイ菜ファーム」において、農業に親しむ場を提供するなど農業理解を図った。

(4) 農業振興対策補助事業

地場産農産物の安定した生産・出荷を促進するために、平塚市園芸協会の支援、野菜価格安定事業及び野菜出荷奨励事業などを実施した。また、園芸廃棄物処理システム事業補助金を交付し、環境に配慮した農業生産を支援した。

(5) 農作物鳥獣被害対策事業

平塚市鳥獣被害防止計画に基づき、有害鳥獣防除用資材購入に対する補助とともに、国の交付金を活用して、イノシシ、ニホンジカ及びカラスの捕獲、県及び地域と連携した藪の刈払いの実施及び侵入防止柵としての電気柵の設置を行った。

第2節 畜産業

近年の畜産業は、CSF（豚熱）や鳥インフルエンザ等の感染症対策を筆頭に宅地開発や住居の混住化等に伴う環境改善対策施設整備、後継者不足、高額な飼料価格及び牛乳の消費低迷等、様々な問題が発生している。

このような厳しい経営環境の下、畜産環境改善対策の一環として、家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設の改修に対して、畜産農家への支援事業を実施した。また、家畜の伝染病対策として、平塚市畜産会を通して、県家畜保健衛生所及び県畜産会と連携し、予防注射の補助制度を設け、伝染病の発生予防に努めた。

1 地区別農家数及び飼養頭数の状況

農家数：令和2年3月31日現在

飼養頭数：平成31年2月1日現在

区分	地区名	土沢	金目	岡崎	金田	豊田	城島	神田	大野	計
	乳用牛	農家数(戸)	8	2	2	3	2	2	2	3
頭数(頭)		214	46	99	73	89	90	65	108	784
肉用牛	農家数(戸)	1	1			1				3
	頭数(頭)	39	26			59				124
豚	農家数(戸)		0	3		1				4
	頭数(頭)		135	4,052		1,365				5,552
鶏	農家数(戸)	1								1
	頭数(頭)	380								380

2 主な畜産振興施策

(1) 畜産経営技術講習会、研修会

畜産経営の向上のための技術講習会や研修会の開催を支援した。

(2) 平塚市畜産共進会

畜産技術の向上と普及啓発を目的に、平塚市畜産共進会を開催している。ただし令和元年度については、一時、牛の伝染性疾病の発生があったことを考慮し、開催を中止した。

なお、次年度の開催に向けたPRブースを大門市で出展した。

(3) 家畜伝染病予防注射事業

家畜伝染病予防法に基づく注射及び検査等について、県家畜保健衛生所と密接な連絡を取りながら、畜産会との連携の下に家畜防疫推進のための支援を行った。

(4) 乳用とく育成管理共進会

優れた資質を持つ「とく牛」の基礎となる乳用牛の飼養管理及び育成技術の向上を図るため、共進会の開催を支援した。

(5) 家畜用浄化槽維持管理共励会

畜産環境の向上を目的に整備された家畜用浄化槽の適正な維持管理のため、関係機関とともに巡回指導を行う共励会を支援した。

(6) 自給飼料作物栽培促進対策

飼料高騰に伴う畜産農家の経営の安定と農地の遊休化防止及び自給率向上のため、自給飼料作物の種子購入経費を補助した。

(7) 畜産環境対策促進事業

「家畜排せつ物の管理の適正化及び利用の促進に関する法律」に基づき、畜産農家が家畜用浄化槽や堆肥化施設等の家畜排せつ物処理利用機械施設を改修等する際の費用の補助及び脱臭資材購入費の補助を行い、畜産環境対策の促進を図った。また、畜産環境の保全及び家畜防疫の推進を図るため、畜産農家が死亡家畜を処理する費用の一部を補助した。

第3節 土地基盤整備事業

本市の市域に広がる農地は、農産物の供給のほかにも、防災や環境の保全などの多面的な機能を担っており、都市における様々な役割が期待されている。

水田の大部分は、農業構造改善事業が早くから導入されたことなどにより、一反（約10アール）を基本とした長方形に整備されている。また、その後実施した農業基盤整備事業で農道・水路の整備や暗渠の敷設を行ってきた。

土地改良事業は、農業経営の近代化に対応した生産基盤としての耕地の整備改良及び都市農業に対応した施策として、主に農業振興地域内を対象とした農道整備事業、用排水路改修事業を実施している。

1 土地改良事業

(1) 県費補助農とみどりの整備事業

- ア 農道改良 2か所 L= 57.5m
- イ 用排水路改修 3か所 L= 133.4m

(2) 市単独補助小規模土地改良整備支援事業

- ア 用水ポンプ施設修繕等
2か所 部品交換及び整備等
- イ 取水施設修繕等
3か所 部品交換及び整備等
- ウ 暗渠施設等
1か所 部品交換及び整備等

第3章 水産

農水産課

第1節 水産業

自然の海岸が多く残り、黒潮の流れを受ける外洋性の相模湾には四季折々1,300種類余りの魚が確認されている。そのほぼ中央に位置する平塚は、漁業の歴史も古く、16世紀半ばには組織的な漁業が行われていた記録が残されている。その後、時代とともに漁法が変遷してきたが、とりわけ一網100人以上の人手を抱えたブリの大謀網や、伊豆諸島近海を主漁場にして全国に名を馳せた「須賀のカツオ一本釣り」、最盛期には十数ヶ統の網元を数えた地引き網などが特筆される。

現在の漁業は、サバ、アジ、イワシなどを対象とした定置網漁業とシラス船引き網漁業を中心に、ヒラメなどを獲る刺し網なども行われ、新鮮な魚を水揚げしている。また近海カツオ一本釣り漁業から転向した遊漁船業は、県内外を問わず多数の遊漁客を集めている。こうしたなか平塚市では、水産資源確保のためヒラメの稚魚の放流や、漁場の活性化のための海底耕うんなどを支援している。また相模川河口対策事業基金からの益金を活用し、航路の維持をはじめ様々な水産振興施策を展開している。また、地産地消にも積極的に取り組み、近年では、6次産業化の考えも取り入れ商品開発に力を入れている。

1 魚種別水揚量

令和元年（平成31年）分

区分	総数	さば	いわし	あじ	しらす	その他
漁獲（トン）	252	79	30	48	60	35

2 利用船

令和元年（平成31年）分

種別	区分						
	利用船総数		地元船		外来船		
	隻数	トン数	隻数	トン数	隻数	トン数	
漁船	無動力漁船	—	—	—	—	—	—
	動力漁船総数	40	422	43	422	—	—
	3トン未満	6	11	10	15	—	—
	3～5トン	4	17	3	13	—	—
	5～10トン	3	24	3	24	—	—
	10～20トン	27	370	27	370	—	—
	20～50トン	—	—	—	—	—	—
計	40	422	43	422	—	—	

3 漁港施設

外かく施設：導流堤 908.7m、護岸 84m、防波堤 855m、防潮堤 207.7m

けい留施設：岸壁 594m、船揚場 35m、棧橋 250m、浮棧橋 314.7m

水域施設：泊地 50,566 m²、航路 14,966 m²

輸送施設：臨港道路 464.3m、駐車場 13,379 m²

環境施設：多目的広場（しおかぜ広場）4,564.7 m²

4 主要施策

(1) 水産振興推進事業

地域漁業の発展のため、6次産業化やその他漁業協同組合等が行う事業活動や漁業者の設備導入に対し支援した。また、水産物のブランド化事業や水難救護法に基づく団体等への補助を行った。

(2) 漁港施設維持管理事業

漁港施設の保全や安全な航路を確保するため、漁港施設や航路維持管理を行った。また、漁港施設の長寿命化を図るため、漁港機能保全計画に基づき右岸導流堤の改修工事を行った。

(3) 市民との交流推進事業

海や魚の魅力を高めるため、漁業や海洋レクリエーション等の生産者と消費者の交流事業を行った。

(4) 漁業後継者育成事業

漁業の担い手につなげる子どもたちや新規就業者に漁業への理解を深めるため、各種研修や体験漁業、市場見学等の活動を支援した。

第2節 漁港整備

平塚漁港の漁港施設は、戦災復興都市としての区画整理事業の実施に伴い、相模川河口の自然港の須賀湊を、掘り込み式漁港として整備(昭和26年2月15日完成)、引き続いて相模川河口部に、航路の確保を目的とした導流堤を建設してきた。

一方、相模川高度利用事業の進展によって、上流にダムや取水堰などが建設され、流下水量が減少したことによって、河口部に海からの漂砂が堆積し航路の維持に苦慮していること、また、遊漁船等の増加により漁港の狭隘化が進んだことから、平成元年度、海岸部に新たに漁港施設を建設するため「新港整備計画」に着手した。この計画に基づき、地域漁業の活性化と海洋レクリエーションとの共存を図ることを目的として、安全性、機能性、快適性等を向上させた漁港施設と、遊漁船等を収容するフィッシャリーナ施設の整備を実施し、平成12年7月に供用を開始した。その後、平塚新港内に平成14年度に荷さばき施設、平成15年度に製氷貯水施設、平成16年度に殺菌冷海水供給装置施設を整備するなど水産業の基盤整備を進めてきた。さらに、漁業環境の向上を目的に、令和2年4月には、多目的広場を整備した。

第3節 平塚市水産物地方卸売市場

平塚市水産物地方卸売市場は平塚市が開設する公設市場である。その前身は昭和31年に、流通機構の改善と水産物の公正な取引き並びに生鮮魚介類の需要の増加に応えるため、本市が市場施設を建設したことにより、市有民営の形態を持つ魚市場として発足している。

そして昭和46年の卸売市場法制定、また翌年の神奈川県卸売市場条例の施行を受けて、昭和47年12月1日、本市は平塚市地方卸売市場業務条例を施行し、翌昭和48年3月1日、神奈川県知事の認可を受け、「平塚市水産物地方卸売市場」が誕生した。

その後の更なる水産物需要の増加に対応するため、昭和50年8月に市場施設の新築工事を行い、昭和51年度～52年度にかけては駐車場、倉庫等の附属施設及びその他付帯施設の工事を実施し、今日に至っている。

当市場は地元海産物が水揚げされる平塚漁港に隣接し、生産地市場の要素を含んだ消費地市場という特徴を持つ。実際に地元海産物の取扱状況を数量で見ると全体のおよそ12.5%、金額では4.0%（令和元年度実績）であり、その他はすべて陸上輸送による集荷に頼っている。

当市場に集荷された水産物は、卸売業者から小売業者が直接買い受け、平塚市を中心に、湘南・県央地域の市町村をはじめ、広範囲に分荷されている。

1 平塚市水産物地方卸売市場取扱状況

(1) 取扱数量

単位：トン

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一般鮮魚	714	618	656	774	638
転送鮮魚	60	63	66	58	60
地元水揚鮮魚	515	359	343	210	233
冷凍品	191	165	130	135	126
塩干品	845	805	828	1,496	806
合 計	2,325	2,010	2,023	2,673	1,863

(2) 取扱金額

単位：千円

区 分	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
一般鮮魚	734,849	665,065	680,139	845,892	725,460
転送鮮魚	70,927	74,503	79,550	79,277	83,379
地元水揚鮮魚	171,864	139,652	154,999	120,094	75,599
冷凍品	241,914	217,688	195,637	200,073	189,716
塩干品	775,715	755,476	730,430	830,251	829,831
合 計	1,995,269	1,852,384	1,840,755	2,075,587	1,903,985

第4章 商業観光

商業観光課

第1節 商業

戦後一大発展をとげた平塚商業は、かつて本市の商圈であった近隣都市やロードサイドへの大型店等の進出、コンビニエンスストアの出店などによって、本市の中心商店街の集客力が低下し、商圈の縮小を余儀なくされている。

これを打開するため、中心市街地活性化法に基づき、平成13年度に策定した平塚市中心市街地活性化基本計画により、平塚商工会議所が設立した「湘南ひらつかTMO」による「チャレンジショップ」や「手づくり食工房」等の事業運営などを行ったが、平成18年の法改正で、基本計画の法的な位置づけが無くなり、「湘南ひらつかTMO」は平成22年度に終了した。その後、平成24年度に、平塚商工会議所により中心市街地活性化調整協議会が組織され、空き店舗に出店する事業者へ家賃補助を行う「平塚市中心市街地出店促進事業」等の中心市街地の活性化事業を開始した。平成28年度では、大型商業施設との差別化を図るとともに新たな顧客を呼び込むため、平塚市商店街連合会が主体となって「駅近キラ☆キラ商店街」事業及び「第1回まちゼミ」を実施した。また、商業の活性化には、個々の商店が魅力的、個性的であることが重要なため、個店の活性化を積極的に進め、平成21年度には、平塚商工会議所と平塚市商店街連合会の共催により、個店が逸品を打ち出すことで、魅力的、個性的な店舗づくりを推進する「平塚逸品研究会」が発足した。さらに平成25年度から、販売促進や経営支援等を目的に専門知識や経験を有するアドバイザーを派遣し、平成26年度からは、手作業にこだわり、伝統的な技や卓越した技術力等により、自店及び自社で製造した製品を販売する店舗及びサービスの提供を行う店舗を「匠の店」として認定する制度を開始した。

今後の本市の商業発展には、消費者に選ばれる個店づくりと経営強化、近隣都市や近郊の大型商業施設等との差別化を図る個性豊かな商店街づくり、駅周辺の集客施設の整備などと連動した中心市街地の活性化に向けた具体的な事業の実施が課題である。

1 商業の推移

(1) 卸売業・小売業の推移

区 分	種 別	19 年	26 年	28 年
商 店 数	卸 売 業	537 店	379 店	370 店
	小 売 業	1,973	1,237	1,410
	計	2,510	1,616	1,780
年間商品販売額	卸 売 業	475,319 百万円	322,526 百万円	339,644 百万円
	小 売 業	267,780	216,409	258,532
	計	743,099	538,936	598,176
1店当り販売額	卸 売 業	88,513 万円	85,099 万円	91,796 万円
	小 売 業	13,572	17,495	18,336
	計	29,605	33,350	33,605
従 業 者 数	卸 売 業	6,369 人	3,580 人	3,727 人
	小 売 業	15,872	12,223	13,382
	計	22,241	15,803	17,109

商業統計調査結果（平成19年及び26年数値）

経済センサス-活動調査結果（平成28年数値）

注：平成26年調査は、日本標準産業分類の第12回改定及び調査設計の大幅変更を行ったことに伴い、前回実施の平成19年調査の数値とは接続しない。

平成28年調査は、平成26年で商業統計調査が終了したことに伴い、経済センサス-活動調査結果の数値であるため、平成26年調査とは接続しない。

端数処理により、合計額が合わない場合がある。

ア 卸売業

卸売業の年間商品販売額は3,396億円で、横浜市・川崎市・厚木市・相模原市に次いで第5位となっている。

イ 小売業

小売業の年間商品販売額は2,585億円で、横浜市・川崎市・相模原市・藤沢市・横須賀市に次いで第6位となっている。

(2) 卸売業業種別状況

業種別	商店数	従業者数	年間商品販売額
各種商	2店	6人	X百万円
繊維	0	0	0
衣服	7	20	X
身の回り	2	6	X
農畜産物・水産物	24	483	50,262
食料・飲料	29	494	38,511
建築材料	49	476	90,562
化学製	35	571	22,113
石油・鉱	10	77	16,670
鉄鋼製	10	77	X
非鉄金	1	1	X
再生資	12	69	1,796
産業機械器具	35	217	10,673
自動車	24	279	16,200
電気機械器具	25	155	12,933
その他の機械器具	21	208	14,092
家具・建具・じゅう器等	18	110	6,199
医薬品・化粧品等	18	214	29,018
紙・紙製	7	23	1,657
他に分類されない卸売業	41	241	X
計	370	3,727	339,644

平成 28 年経済センサス-活動調査結果

(3) 小売業種別状況

業種別	商店数	従業者数	年間商品販売額
百貨店・総合スーパー	1店	75人	X百万円
その他の各種商品	2	2	X
呉服・服地・寝具	21	83	834
男子服	25	130	2,173
婦人・子供服	87	500	8,438
靴・履物	18	71	1,046
その他の織物・衣服・身の回り品	57	333	3,068
各種食料品	38	2,295	44,064
酒	30	140	2,794
食肉	15	64	696
鮮魚	33	103	1,182
野菜・果実	32	111	1,435
菓子・パン	89	617	4,740
その他の飲料品	196	2,991	32,916
自動車	131	1,147	44,935
自転車	23	57	434
家具・建具・畳	24	110	1,790
機械器具	66	479	20,201
じゅう器	22	66	614
医薬品・化粧品	156	1,429	30,469
農耕用品	6	40	1,354
燃料	59	386	15,781
書籍・文房具	37	581	6,310
スポーツ用品・玩具・娯楽用品・楽器	38	296	4,382
写真機・時計・眼鏡	24	125	1,598
他に分類されない小売業	136	828	10,435
通信販売・訪問販売	30	210	9,879
自動販売機による小売業	4	46	2,203
その他の無店舗小売業	10	67	2,578
計	1,410	13,382	258,532

平成28年経済センサス-活動調査結果

注：「X」・・・集計対象となる事業所（企業等）の数が1又は2であるため、集計結果をそのまま公表すると個々の報告者の秘密が漏れるおそれがある場合に、該当数値を秘匿した箇所。また、集計対象数が3以上の事業所（企業等）に関する数値であっても、合計との差引きで、集計対象が1又は2の事業所（企業等）の数値が判明する箇所は、併せて「X」としている。

2 主要施策

人々の価値観や消費者ニーズは多様化してきており、これらに適切に対応した経営力強化のための経営意識の啓発、商店街施設の改善、店舗の魅力アップなどの推進施策を行った。

(1) 商業活性化の推進

ア 商店街にぎわい創出事業

(ア) 中心街活性化事業

中心市街地の活性化のため、事業の企画・実施を行う「中心市街地活性化調整協議会」の運営に対して支援を行った。中心商店街の各店主などが講師となり、プロならではの知識やコツを教える「まちゼミ」では、新規顧客の獲得や売上の増加に向けた取り組みを促進した。

期間 10月1日(火)～10月31日(木)

参加店舗 41店 開催講座 63講座 受講者数 644人

(イ) にぎわい創出事業

市民とのふれあい促進、商店街の魅力発信など商店街の活性化を図るため、商店会が行う交流事業や販売促進活動事業への支援を行った。

イ 市民プラザ運営補助事業

産業振興と市民の生活文化及びコミュニティの向上を図るため、展示と催事ができる多目的のホールとして設置された「ひらつか市民プラザ」の管理・運営に伴う経費等の補助を行った。

・43行事 入館者 延べ30,326人 1日平均入館者 約139人

(2) 魅力ある商店街の形成

ア 商店等魅力アップ推進事業

(ア) 商業経営セミナー

“見せる”から“魅せる”へ変化するメニュー表示の作り方講座

開催回数 2回 参加者 延べ11人

(イ) 個店アドバイザー派遣事業

専門知識や経験を有するアドバイザーを派遣し、個店における販売促進や経営に関する支援を実施した。

派遣店舗数 7店舗 派遣回数 延べ26回

(ウ) 平塚逸品研究会

新規顧客の開拓、リピーターの確保のため、各店のお勧めの逸品を発掘、開発するための活動に対し支援を行った。

開催回数 16回 参加者 延べ524人

イ 商店街共同施設整備促進事業

商店街の環境整備を図り、その発展に資するため商店街が共同で整備する街路灯の改修費等に対し一部補助を行った。

ウ 商店街共同施設維持管理事業

買い物客等の安全性、利便性及び快適性を高めるために、商店街に整備された商店街団体が管理する施設の電気料、上下水道使用料、アーケードの清掃等の維持管理に要する経費の一部補助を行った。

(3) 商業経営環境の強化

平塚市商店街連合会補助事業

平塚市商店街連合会の運営に対し補助を行い、その育成に努めた。

第2節 計量

商工業者にとっては、量目等の正確な計量は、品質の向上、経費の節減等に直接関係することであり、また、消費者の信頼を醸成するためにも極めて重要である。本市の計量事務は、定期検査、立入検査及び啓発普及活動を通じて市内商工業の活性化に寄与することを主眼に実施した。

1 特定計量器の定期検査

取引・証明に使用する計量器（はかり）に2年に1回義務付けられている検査を、市内商工業者等を対象に、市の指定定期検査機関である（公社）神奈川県計量協会が実施した。

- ・ 電気式はかり・機械式はかり

はかりの種類（ひょう量）		検査台数
電気式	100kg 以下	198 台
	250kg 以下	59
	500kg 以下	3
	1000kg 以下	0
	100kg 以下（精度 1 万分の 1 未満）	12
機械式	直線指示ばかり他	3 台
	100kg 以下	194
	250kg 以下	5
	500kg 以下	1
	1000kg 以下	0
計		475

- ・ 大型はかり

はかりの種類（ひょう量）	検査台数
10t 以下	1 台
20t 以下	0
40t 以下	1
50t 以下	0
60t 以下	0
計	2

2 立入検査

計量法第148条に基づいて、計量器・量目に関する立入検査を行った。令和元年度に検査対象としたのは、LPGメーター、ガソリンメーター及び商品量目検査であった。

検査対象		事業所数	検査個数	不適正個数
計 量 器	LPGメーター（台帳検査）	2	2,600	0
	ガソリンメーター	4	89	0
	質量計	4	20	0
量 目	スーパーマーケット（中元）	2	160	0
	スーパーマーケット（年末・年始）	2	150	0
	商品試買検査（マカロニ類）	1	25	0
計		15	3,044	0

3 計量管理思想の推進

県の定める、7月及び12月の「正量取引強調月間」及び11月の「計量管理強調月間」に、啓発用ポスター・ステッカー等を関係事業所や公共機関に掲示した。また、市のホームページに「計量検査」を掲載するとともに、消費生活展では計量コーナーを設け、計量の普及啓発に努めた。

11月には、自ら計量管理を実施する適正計量管理事業所を対象に、県と合同で実態調査を実施した。

第3節 観光

近年、比較的観光資源が乏しいといわれる本市においても、東に湘南潮来、西に湘南平をはじめとする「平塚八景」、その他市内に散在する数々の史跡、旧跡や伝統芸能等、市民の欲求にこたえられるものが数多くみられる。これらの観光資源の紹介、そして七夕まつりをはじめとする各種観光行事を実施するとともに、近隣市との広域連携や関係諸団体との連携などによる新しい観光資源の開発などにより、市民生活に潤いを与えつつ市民の郷土に対する愛着を深める諸事業を実施した。

1 湘南ひらつか七夕まつりの開催

第69回を迎えた湘南ひらつか七夕まつりは、3日間とも曇天で、一時雨が降る天気であったが、金曜日の人出が多かったことなどで、3日間で前年より15万人多い、155万人の観光客を迎えた。

メイン通りの湘南スターモールの飾りは86本を数え、中心商店街全体としては、約500本の七夕飾りが掲出された。

公募による市民飾りが33本掲出されたほか、手作り企業飾りが9本、子ども飾りは20本で市民参加型の飾りが多数掲出された。

織り姫と音楽隊パレードでは、東海大学体育会ソングリーダー一部、応援団が、地元の小学生SOZENマーチングバンドなどが参加した。また、織り姫がオープンカーで参加し、会場を盛り上げた。

イベント会場となった見附台広場は、「～出会い・願いの広場～」と題し、様々なイベントが開

催された。

「七夕ステージ」では、市民公募によるパフォーマンスのほか、友好都市郷土芸能、ご当地キャラクター大集合、HANDSIGN Live など子どもから大人までが楽しめるステージパフォーマンスが行われた。同広場では、平塚青年会議所による「七夕たからいち」（市内飲食店 16 店舗によるご当地グルメ）の開催や動く恐竜ロボットなどが出現し、おまつり会場として大いに賑わったほか、第 65 回湘南ひらつか織り姫で女子プロレスラーでもある松本浩代選手が出場するひらつか七夕プロレスを実施し、多くの観光客が青空プロレスを楽しんだ。

- (1) 主催 湘南ひらつか七夕まつり実行委員会
(平塚市、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会、(一社)平塚市観光協会)
- (2) 後援 神奈川県、(公社)神奈川県観光協会、東日本旅客鉄道(株)横浜支社、神奈川中央交通(株)、小田急電鉄(株)、神奈川新聞社、tvk (テレビ神奈川)、(株)湘南ジャーナル社、(株)湘南リビング新聞社、(株)タウンニュース社、湘南ケーブルネットワーク(株)、(株)湘南平塚コミュニティ放送
- (3) 期日 7月5日(金)～7日(日)
- (4) 開催補助金 63,827,000 円
- (5) 観光客数 1,550,000 人(3日間)
- (6) 主な行事 織り姫セレクション、七夕飾りコンクール、七夕ステージ、市中訪問、七夕おどり千人パレード、織り姫と音楽隊パレード、七夕たからいち、ひらつか七夕プロレス、巨大恐竜ロボット、ひろえば街が好きになる運動など

2 湘南ひらつか花火大会の開催

夏の風物詩として好評の湘南ひらつか花火大会は、市民を始め一般観光客の誘致を図り観光地を紹介するため開催した。

- (1) 主催 平塚市
- (2) 実施団体 湘南ひらつか花火大会実行委員会
(平塚市、平塚商工会議所、平塚市商店街連合会、(公社)平塚青年会議所、(一社)平塚市観光協会等)
- (3) 後援 神奈川県、(公社)神奈川県観光協会
- (4) 期日 8月23日(金)
- (5) 開催委託料 7,600,000 円
- (6) 観光客数 130,000 人
- (7) 打上げ発数 約3,000 発

3 観光団体

(一社)平塚市観光協会

- (1) 会員 111 人(団体 111、個人 0) 役員 26 人 令和 2 年 3 月 31 日現在

(2) 予算

○一般会計	18,880 千円
○特別会計（観光史跡整備資金）	270,100 円
○特別会計（市民プラザ運営管理事業）	6,321 千円
○特別会計（市民プラザ常設販売事業）	1,189 千円

(3) 主な実施事業

- アマダイ沖釣り大会 12月7日（土） 参加者 107人
- ひらつかタマ三郎周遊船ツアー 6月8日（土） 参加者 67人
- 観光風景写真コンクール 募集6月6日（木）～7月22日（月） 応募点数 687点
展示10月8日（火）～10月13日（日）
- 菊花展 11月1日（金）～11月15日（金） 出品数 約200鉢
- 湘南ひらつか七福神めぐり 計11回実施 参加 136人
- 地域観光資源情報発信事業
Webサイト「湘南ひらつかナビ」による各種情報の提供やフェイスブック等での情報発信
- 物産販売事業
ひらつか市民プラザ内「観光物産販売コーナー」の愛称を募集し、「みなくる平塚」に決定。
オンラインギフトショップ「平塚ギフト」での名産品等販売

4 主な名所の年間観光客数（神奈川県観光客入込調査報告書による）

- 湘南平 821,000人
- 湘南潮来 220,000人

5 近隣市町との広域観光

- 湘南地区観光振興協議会
協議会の一員としてPR用リーフレットを作成するとともに、県外キャンペーン等の誘客活動を行った。
- 上野東京ライン沿線でのキャンペーン
神奈川集中観光キャンペーンと連携し、横浜駅で誘客活動を行った。
10月29日（火）、10月30日（水）、11月30日（木） 横浜駅東口・新都市プラザ
イベントスペース

6 観光資源の紹介

- ホームページにより市内観光資源を紹介した。
- 「湘南ひらつか七夕まつり」PRキャンペーン
神奈川県観光協会と連携し、湘南ひらつか七夕まつりの観光PRを実施した。
5月16日（木）～5月19日（日） KITTE丸の内イベントスペース
- インバウンド誘致
神奈川県観光魅力創造協議会主催の「インバウンド商談会」において、旅行者に市内観光資源を紹介した。

11月13日(水) 旅行者39社

2月25日(火) 旅行者39社

○平塚市民・大学交流委員会事業

東海大学観光学部生の視点で平塚市内の観光資源を掘り起こし、学生目線の「湘南ひらつかサイクリングマップ」を作成した。

○市内観光資源を巡るツアーの企画協力

平塚市産業振興部の女性職員で構成される「なでしこプロジェクト」で、市内観光資源を巡るツアーの企画協力を行った。

「春のバラとKEIRIN観戦ツアー」

5月13日(月) 参加者 10人 花菜ガーデン、平塚競輪場、平塚駅南口広場、あさつゆ広場

○やすらぎ回廊「水と光と緑の散歩道～平塚のバラの名所をまち歩き～」ハイキング

やすらぎ回廊を広くPRするとともに観光素材を発掘、調査をし、今後の観光ツアー等に活用するためにハイキングツアーを実施した。

5月22日(水) 参加者 11人 旧横浜ゴム記念館、(株)パイロットコーポレーション「蒔絵工房NAMIKI」、総合公園、ホテルサンライフガーデンほか

第5章 工業

産業振興課

令和元年6月1日現在で実施された「工業統計調査（確報）」について、その主要項目から、本市の概況をみると次のようになっている。

(1) 事業所数

製造業を営む事業所数は323事業所で、前回に比べ16件（4.7%）減少した。

(2) 従業者数

製造業に従事している従業者数は20,668人で、前回に比べ346人（1.7%）増加した。

(3) 製造品出荷額等

製造品出荷額等は1兆3,212億2,500万円で、前回に比べ658億800万円（5.2%）増加した。

※前回とは、平成30年工業統計調査の速報値です。

1 中小企業の振興対策

日本経済の中核としてその役割を担っている中小企業にとって、特徴のある製品開発と精度の高い品質保証は、その企業の成長、業績の向上のために必要不可欠となっている。

しかし、こうした技術の活用・導入には、多額の資金を要するため、中小企業発展の課題となっている。本市としても中小企業を取り巻く経営環境の変化に対応し、活力と創造力あふれる企業づくりを支援するために、国・県の中小企業施策に併せながら、次のような主要事業を展開した。

(1) 企業立地等促進事業

工業の活性化と雇用機会の促進を目的とした従来の工業活性化促進事業を更に充実させた制度を新たに設け、平成22年4月から申請受付を開始している。また、平成26年度から要件を満たした場合は、施設整備助成の補助対象期間を2年間延長するとともに、企業立地奨励助成及び市内発注奨励助成を追加するなど、支援内容を拡充している。

ア 施設整備助成

企業が市内に事業所等を新設又は増設した際、土地、家屋、償却資産の取得にかかった費用が一定基準以上（大企業は3億円以上、中小企業は5千万円以上）の場合に、固定資産税、都市計画税相当額の2分の1の額を要件を満たした場合は7年間、その他は5年間助成する。（限度額：助成累計5億円。企業立地奨励助成と市内発注奨励助成を含む）

・令和元年度適用申請	1件
・令和元年度交付実績	19件 90,581,000円

イ 企業立地奨励助成

施設整備助成適用企業が、研究所や情報通信業の用地、又は5,000㎡以上の用地を取得した場合に、対象となる土地の固定資産税、都市計画税相当額の2分の1の額を初年度に限り助成する。

ウ 市内発注奨励助成

施設整備助成適用企業が、新規に購入する建物及び償却資産の全額を、市内企業に発注し、支払をした場合、当該建物及び償却資産の固定資産税、都市計画税相当額の2分の1の額を初年度に限り助成する。

エ 新規雇用助成

施設整備助成適用企業が、市内在住者を常用従業員として雇用した場合に、雇用1人につき30万円(中小企業の場合は50万円)を助成する。また、雇用者のうち20歳未満の者、60歳以上の者及び障害者雇用の促進等に関する法律で定める障がい者を雇用した場合には、奨励加算として20万円を助成する。(限度額:1,000万円)

- ・令和元年度適用申請 2件
- ・令和元年度交付実績 1件 1,200,000円

オ 環境設備助成

施設整備助成適用企業が、雨水活用設備を設置した場合には貯水量1m³につき5万円を乗じた額(限度額100万円)を、太陽光発電設備を設置した場合には発電能力1kwにつき10万円を乗じた額(限度額300万円)を、風力発電設備を設置した場合は発電能力1kwにつき5万円を乗じた額(限度額100万円)を助成する。

カ 持続可能な経営奨励助成

企業が取り組む働きやすい環境づくりを後押しし、災害時において組織の変化への適応力や回復力を高めるために、設備投資と併せてイクボスの取り組みやBCPの策定などを行っている企業に対するインセンティブを設ける。

キ 中小企業設備投資促進助成

市内の中小企業が、生産の拡大、生產品の変更、新製品の開発及び生産のため設置する機械及び装置等で、総額2,000万円以上のものを対象に取得額の2%を助成する。(限度額:300万円)

(2) 産学共同研究支援事業

新製品開発、技術開発等、技術革新を進める市内中小企業者等が大学等と共同研究に係る契約を締結した場合に、費用の一部を補助する。

- ・令和元年度交付実績 1件 231,000円

(3) 中小企業退職金制度の整備・充実の促進

独立行政法人勤労者退職金共済機構の行っている中小企業退職金共済制度及び商工会議所が取り扱っている特定退職金共済制度への加入を促進する目的で共済掛金の一部を補助した。

中小企業退職金共済掛金補助状況

制度名	申請件数(件)	対象人員(人)	補助金額(円)
中小企業退職金共済制度	46	264	888,900
特定退職金共済制度	5	45	221,850
計	51	309	1,110,750

(4) 湘南ひらつかテクノフェアの開催に伴う支援

企業間及び大学との技術交流を深め、新規取引の拡大と産学連携を図ることを目的として、平塚商工会議所などで構成された実行委員会により「湘南ひらつかテクノフェア 2019」を開催した。このテクノフェアでは会場内に設置したブースに、参加した企業や学校、その他団体等が自社製品や紹介パネル等を展示することによって、製品や活動内容を広くPRすることができた。

- ・令和元年10月17日(木)～19日(土) 会場 ひらつかアリーナ
- ・主管 湘南ひらつかテクノフェア実行委員会
- ・出展者数 103企業(学校、その他団体等を含む)
- ・来場者数 約6,800人

2 波力発電関連分野での新産業創出促進事業

波力発電関連分野での新産業創出と地域活性化を図るため、平塚市と東京大学生産技術研究所が協力し、さまざまな企業が参画する産学公の平塚海洋エネルギー研究会を平成28年6月9日に発足した。

東京大学生産技術研究所が平成30年度CO₂排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業(二次公募)に採択され、平塚波力発電所の海域実証が進みだした。これを受け、平成31年3月19日に東京大学生産技術研究所と平塚市は連携協力協定を締結した。

令和元年度は、平塚波力発電所の制作が市内外の企業で進められ、令和2年2月5日に設置工事が完了した。経済産業省の使用前検査に同2月17日に合格した。これにより、平塚波力発電所の海域実証が始まった。

3 その他

発明・考案・特許相談の窓口を開設し、相談に応じた。

第52回平塚市児童生徒創意くふう展を10月17日から19日までひらつかアリーナを会場に開催した。夏休みを利用して創作した児童生徒の作品を、学校単位に小学校21校58点、中学校7校31点の合計28校89点を展示した。

なお、その中から18点を第78回神奈川県青少年創意くふう展覧会に出品し、特別賞に1点、優良賞に4点が選ばれた。

第6章 労働行政

産業振興課

我が国では、景気は緩やかな回復基調が続いており、雇用情勢も改善傾向にある。少子高齢化による労働力人口の減少が進み、人口減少時代にあっては、女性や高齢者の活用の重要性が注目されてきており、仕事と子育てや介護との両立、仕事と生活の調和（ワークライフバランス）の実現に向けた取組が必要とされている。

これらに対応するため、労働関係行政機関との連携を図り、就労支援や勤労者の福祉施策などを行った。

1 就労支援事業

(1) ニート 親のためのセミナー・相談会

近年増え続けている「ニート」と呼ばれる若者のための施策として、「ニート」の親を対象としたセミナー及び相談会を、青少年課及び神奈川西部地域若者サポートステーションと連携し開催した。

会場 市庁舎本館

講師 特定非営利活動法人子どもと生活文化協会 和田 重宏 氏

(県西部地域若者サポートステーション受諾団体)

ア 相談会

- ・令和元年6月27日（木） 相談件数 8件
- ・令和元年12月12日（木） 相談件数 6件

イ セミナー

- ・令和元年6月27日（木） 参加者数 30人
- ・令和元年12月12日（木） 参加者数 17人

(2) 就労支援セミナー

令和元年度は、求職者の就労を支援し、在職者の定着を支援するため、下記のセミナー等を開催した。

ア 企業合同就職面接会直前若年者向けセミナー（対象：39歳以下）

- ・令和元年8月29日（木） 会場 市庁舎本館 参加者 1人

イ 企業合同就職面接会直前中高年者向けセミナー（対象：40歳以上）

- ・令和元年8月30日（金） 会場 市庁舎本館 参加者 21人

(3) 企業合同就職面接会

就職・再就職を希望する方と求人企業との直接の出会いの場をつくり、効率よく就職活動が行えることを目的として「企業合同就職面接会」を、関係機関及び近隣市と連携し開催した。

- ・主催 平塚市
- ・共催 平塚公共職業安定所、平塚商工会議所、伊勢原市、茅ヶ崎市、秦野市、大磯町、二宮町
- ・令和元年9月18日（水）、19日（木） 会場 ラスカ平塚 6階ラスカホール

- ・参加事業所数 41 事業所
- ・参加求職者数 133 人（うち、採用された求職者数 16 人）

(4) 就労相談

就職に悩んでいる方やその家族を対象に、問題解決の糸口がつかめるように経験豊富なキャリアコンサルタントが個別相談に応じた。

- ・会場 平塚市勤労会館
- ・実績 毎月2回 年間相談件数 17 件

2 技能者表彰

技能の練磨及び後進の育成を目的に、その職種の向上発展に功績のあった方を表彰した。被表彰者は16人で、技能功労者10人、優秀技能者6人であった。

- ・令和元年10月17日（木） 会場 ひらつか アリーナ

3 勤労者金融支援事業

勤労者の生活の安定と向上を図るため、「平塚市勤労者生活資金融資要綱」に基づき「中央労働金庫」に対し預託を行った。

なお、融資対象者は、市内に居住又は市内の同一事業所に1年以上勤務する方。

令和元年度の利用件数は、169件（新規6件）で融資額は131,491,243円（新規12,660,000円）であった。基本となる金利は、上半期1.90%、下半期2.00%であった。

4 中小企業福利厚生支援事業

中小企業の従業員及びその事業主の福利厚生の増進等の事業を、会員事業所に対して実施している平塚市勤労者共済会に補助金15,298,000円を交付した。

平塚市勤労者共済会は、平成6年4月に事業を開始し、令和2年3月末現在の会員数は、443事業所、1,525人となっている。

令和元年度の福利厚生事業として、文化教養事業では各種教室等の8事業に172人が参加、レクリエーション事業（スポーツ大会含む）では16事業に468人の参加があり、割引あっせん事業では各種チケットをあっせんした。

5 勤労会館利用状況

働く市民の福祉の増進及び教養文化の向上に向けた活動の場を提供するため、昭和55年7月に開館した。令和元年度の利用実数は次のとおりである。

- ・利用総人数 33,322 人

6 技能職団体「親子ものづくり教室」

技能文化の向上と技能職種に対する理解をより深めてもらうため、親子を対象に市内各種技能職団体による工作教室を実施した。

令和元年度は5団体に参加協力を得て、銅板の表札づくり、光る泥だんごづくり、たたみコースターづくり、ペン立て・封筒づくり、石の判子づくり・印鑑作成実演を7月28日（日）にOS

C湘南シティで実施した。

7 情報紙発行

労働問題等についての国、県等の資料をもとに、「勤労ひらつか」を毎月発行し、市内の企業・労働組合等を中心に配布し、情報提供に努めた。

8 労働講座の開催

勤労者の知識と教養を深めるため、神奈川県かながわ労働センター湘南支所との共催で、令和元年度の労働講座を次のとおり開催した。

会場 ひらつか市民活動センター会議室

開催日	テーマ	講師	参加人数 (人)
令和元年 11月22日 (金)	「ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて」 ～多様で柔軟な働き方、育産休制度の積極的な活用等～	ドリームサポート社会 保険労務士法人 社会保険労務士 大野 ゆかり 氏	17
11月28日 (木)	「メンタルヘルス不調の現状と対策」 ～使用者側の対応と労働者の復職に向けた動き等～	北岡社会保険労務士法 人 社会保険労務士 北岡 大介 氏	29
12月3日 (火)	「職場におけるハラスメントの防止」 ～パワーハラスメント対策の法制化、裁判の 動向等～	桐蔭横浜大学 教授 勝亦 啓文 氏	45
12月6日 (金)	「雇用形態にかかわらず公正な待遇の確 保」 ～派遣労働契約を始めとした、同一労働同一 賃金の適用等～	神奈川総合法律事務所 研究員 石渡 豊正 氏	42

第7章 公営事業

事業課

第1節 競輪事業

本市の競輪事業は、昭和25年開設以来本市財政に大きく貢献してきた。近年は入場者数や車券発売収入ともに減少傾向にあり大変厳しい事業環境にある。なお、令和元年度一般会計繰出金は、平成30年度に比べ5千万円減の2億円となったうえ、年度末の新型コロナウイルス感染症の拡大防止による影響を受けた。

1 事業実績

平塚市営分

(単位 円)

区分	開催回数	開催日数	入場者数	車券発売収入	一般会計繰出金
30年度	12	46	147,113	23,654,060,600	250,000,000
元年度	13	52	111,777	15,559,796,700	200,000,000
前年度比	1	6	▲ 35,336	▲ 8,094,263,900	▲ 50,000,000

※車券発売収入には、設置した臨時場外分を含む。

一般会計繰出金とその用途

(単位 千円)

区分	総務費	民生費	衛生費	農林水産業費	商工費
30年度	8,094	8,361	9,726		
元年度	14,408				

区分	土木費	消防費	教育費	他会計への繰出金	合計
30年度	62,529	7,708	153,582		250,000
元年度	30,568		155,024		200,000

2 施設

- (1) 競輪場面積 52,130.990 m²
- (2) 競走路 周長400mアスファルトマッコーネル緩和曲線
みなし直線54.2m 幅員 ホーム11m バック9.3m コーナー部7.5m
路面傾斜 最高31度28分37秒 最低3度26分01秒
- (3) 投票券発売・払戻所 10か所 130窓 (うち自動発払機90)
- (4) 特別観覧所 2か所
- (5) 来場者用駐車場 13か所 駐車可能台数 3,197台
- (6) 自転車置場 3か所 906.02 m²